工学院大学附属中学・高等学校（東京都）

充実したICT環境と授業における電子書籍の積極的な活用

取組のねらい ・授業利用　・生徒の読書推進

取組の主体 工学院大学附属中学校・高等学校

取組の沿革・概要

2016年10月～12月の実証実験を経て、2018年５月に工学院大学附属中学校・高等学校の電子図書館がスタートしました。生徒たちはタブレット等の端末を全員が所有しており、時間や場所を選ばずに電子書籍へのアクセスが可能になっています。同校はインタークラスがあり、語学の習得に力を入れているため、洋書やオーディオブックの蔵書が多い、英語機能の充実したサービスを選択しました。電子図書館は、個人の読書利用だけでなく授業の課題など幅広い利活用を見据えて、校内だけでなく校外での利用も可能となっています。

取組の具体的内容

個人で電子書籍を利用する際には、一人一人に割り当てられたIDとパスワードを入れてオンライン上の本棚に移動すれば、ワンクリックで借りられる簡単な仕組みになっています。電子書籍の利用を推進するために、電子書籍でも実際の図書館と同じように人気の本のランキングやテーマ別の特集ページを設けて本を紹介する取組をしています。今年のコロナ禍では図書館のバーチャルツアーもオンラインで行いました。

授業内の取組としては、英語科・国語科を中心に電子書籍の活用を見ることができます。英語科では、電子書籍の一部を画面に映し、文字をハイライトしたまま音読するなど、電子書籍の特徴を活かした取組を行っています。また、英語科や国語科の授業に加え、同校独自の「デザイン思考」という授業では、電子書籍を読むだけでなく、実際に小説などの作品を作ってお互いに読みあえる形にアップロードする取組も行っています。自分たちも発信者になること、生徒同士で作品を読みあうことを通して、電子図書館だけでなく読書がより身近な存在になると思っています。

取組の成果と今後の展望

実際に電子図書館を導入してから、電子書籍のほうが紙よりも読みやすいと感じる生徒がいることを実感しています。もともと紙の本を読む生徒は、比較的電子書籍も読む傾向にはあると思うのですが、今は日常的に読書をしない生徒を、電子書籍というツールの利点を生かして、どのように読書の取組に導いていくかが課題となっています。今後、利用促進を図っていくためにコンテンツの充実や特集棚を工夫していくことを考えています。また、さらに授業内での活用も進めていきたいです。

POINT

工夫

●英語機能の充実したサービスを選択

英語科の支持が厚かったOverDriveは、多くの洋書だけでなくリスニングや音読に活用できるオーディオブックの機能が備わっています。洋書は紙だと届くのに時間がかかりますが、電子書籍だとすぐに届くのも魅力。ネイティブの教員にも選書に参加してもらっています。

●充実したICT環境

校内には無線LANを導入し、中学生はタブレット、高校生はBYOD（個人端末）を全員が所有しています。最初にICT環境を整えることが、電子図書館導入に向けてもっとも重要なポイントのひとつです。

幼保連携型認定こども園　追手門学院幼稚園（大阪府）

こども園・幼稚園における デジタル絵本制作と電子図書館サービスの導入

取組のねらい　・園児の主体性伸長のきっかけづくり　・小学校以上でのICT活用の予行練習

取組の主体　追手門学院

取組の沿革・概要

追手門学院の創立 130 周年にあたり、小中高大学すべてに電子図書館サービスを導入した流れで、2020 年 6 月に併設の幼稚園にも電子図書館システム・LibrariE を導入しました。2020 年 11 月現在の蔵書数は 255 冊です。保護者は電子図書館のホームページにアクセスすれば、自宅からいつでも簡単に絵本を借りることができ、借りたい本が貸出し中であれば予約も出来ます。

取組の具体的内容

園の主な取り組みは、電子書籍を 60 型の電子黒板に映し出した読み聞かせです。大きな画面で絵や文字も細部まで見られるため、子供たちの反応も非常に良く、預かり保育のような長い保育時間でも子供たちは飽きずに過ごしています。

既成の絵本を読み聞かせるだけでなく、幼稚園の教員はオリジナルのデジタル絵本の制作にも取り組んでいます。2020 年の 1 月には、追手門学院幼稚園の 11 名の教員を対象に、デジタル絵本制作ワークショップを行いました。作ったオリジナル絵本は、実際の保育にも使用しています。例えば歯磨きに興味を持たせるような内容のオリジナル絵本の読み聞かせによって、年少の子供たちは自然に歯を磨くことが出来るようになってきました。園児向けには 2021 年の 6 月頃に同様のワークショップを行う予定です。「学校法人追手門学院　図書・情報メディア部」が学院全体の ICT 活用支援を担っているのです。

取組の成果と今後の展望

デジタル絵本の読み聞かせは、子供たちに好評だっただけではなく、文字が読めるようになるといった教育的な副次効果も見られました。

将来的には、子供たちがただ読み聞かせをしてもらうだけでなく、自分でデジタル絵本を作って下級生に紹介できるようになることや、作った絵本を友達同士で見せあうような活動ができることを目指しています。今の段階ではタブレットで簡単な一枚のスライドを作って自己紹介をしているだけですが、発表する側も自信にあふれており、聞いている側も絵や文字があるので、通常の自己紹介よりもよく理解しながら聞いています。子供たちの主体性を伸ばしていくという側面を大事に、電子書籍を活用した保育活動を行っています。

POINT

工夫

●タブレットでの保育活動

タブレット等のICT機器は、2019年に既に導入しています。子供たちの表現の手段の一環としてICTを自在に使えるようになってほしい、小学校に上がったときに自信を持てるようになってほしいとの意図から、普段からタブレットを用いたお絵描きや調べ学習などの保育活動を行っています。

●「読む」から「作る」へ

実際に絵本を楽しんで作る中で本好きが生まれていくとの思いから、園児向けのワークショップを開催する予定です。そのためにはまず先生が楽しんで絵本を作っている姿を見せることが大事です。幼稚園の教員は、積極的にデジタル絵本制作ワークショップに取り組んでいました。

広島県立図書館（広島県）

青少年のための電子図書館サービス「With　Books　ひろしま」

取組のねらい　・コロナ禍における青少年の心のケアと学びの支援

取組の主体　広島県立図書館

取組の沿革・概要

広島県立図書館は、コロナ禍における事業の柱の１つとして、学校の再開後もストレスを抱える子供たちの心のケアと学びの支援を目的に 2020 年７月 29 日に電子図書館サービスを導入しました。取組の対象を、中高生を中心とした青少年としたため、子供たち向けの本の取り扱いの多い電子書籍サービスを選びました。従来の図書館の利用カードを持っていれば、そのままログインできるほか、カードがない場合も広島県庁の電子申請システムから ID の申請が可能です。

取組の具体的内容

電子書籍の選書にあたっては、司書がスクールカウンセラーや電子書籍の専門家等に話を伺いながら実施し、普段あまり読書習慣のない子供にも親しめる平易な本や学習漫画なども含め、幅広に購入しました。2020 年の夏休みが始まる前には、サービスの開始を学校とメディアの両方を通じて広報を行いました。

広島県立図書館では、電子書籍の貸出のほか、2020 年 12 月から「電子図書館サービス出張体験会」も行っています。広島県内の中学校、高等学校、特別支援学校等を図書館職員が訪問し、生徒たちに電子書籍を実際に体験してもらう試みです。12 月中には県内高等学校の４校で体験会を実施しました。

取組の成果と今後の展望

「電子図書館サービス出張体験会」では、普段あまり本になじみがない生徒たちがタブレットで電子書籍を読んでいる様子を見ることができました。また、ジャンル毎に書架が分かれた図書館と異なり、電子書籍は様々なジャンルの本の特集が一度に表示されることから、紙の本ではあまり読んだことのないジャンルの本を読む生徒たちも見られました。今後、電子図書館サービスが子供たちにとってより身近な存在になるために、電子書籍や、若い世代に親和性の高いSNSを通じた広報など、サービスの認知度を高めるとともに、子供たちの反応や声を電子図書館サービスの向上に反映していきたいと考えています。

POINT　**工夫**

●電子申請システムからの図書館ID取得

図書館に来館しなくても、広島県庁の電子申請システムから簡単に図書館IDの申請ができます。インターネットに繋がった端末さえあれば、ID申請から読書まですべて自宅から行うことができます。

●「電子図書館サービス出張体験会」

広島県立図書館は、中学校、高等学校、特別支援学校等を訪問して電子書籍を実際に体験してもらう取組を行っています。体験会では、生徒たちがすぐに操作を身につけ，手慣れた様子で、面白そうに本を選んでいる様子が見られました。生徒たちからは、朝読書や通学中の読書に電子書籍を活用したいという声がありました。

札幌市（北海道）

子供向け電子書籍制作ワークショップの取組

取組のねらい ・時代に即した市民サービスの提供　・若年層への読書推進

取組の主体 札幌市

取組の沿革・概要

札幌市の図書館では、2010 年に「第 2 次札幌市子どもの読書活動推進計画」が策定されたことを受け、「子ども読書チャレンジプロジェクト」として子供の読書活動を推進するための取り組みを開始しました。2016 年に札幌市えほん図書館が開館し、未就学児を対象としてタブレット端末を利用した「デジタルえほんワークショップ」を実施。2019 年には小学生を対象として、中央図書館でも開催しました。

取組の具体的内容

2019年には、小学生がタブレットを使い、キャラクターやストーリーを自在に組み立ててオリジナルの絵本を作成・発表するイベントを開催しました。イベントでは、子供たちがタブレットをすぐに使いこなしている様子や、子供同士で操作について教えあう場面も見られました。子供たちは夢中になって制作に取り組んでおり、発表の時間が少なくなってしまう程でした。

また、札幌市の図書館では2014年から電子書籍の貸出サービスも行っています。市内の小学校と連携した取組として図書館を利用した進路学習の際に、児童が自分のなりたい職業について調べた内容を4コママンガにまとめたものを電子書籍化し、公開する試みも行いました。

取組の成果と今後の展望

電子書籍を「作る」ことを通じて、子供たちは電子書籍を「読む」ことについても興味を持ってくれていると感じています。現在、コロナ禍で対面でのイベントが難しくなっている状況ですが、オンラインを活用した取り組みなど、工夫して子供の読書活動を支援していきたいと考えています。

コロナ禍で電子図書館は改めて注目されています。2020年の４月は、13～18歳の年齢の利用者数は前年比で４倍以上になりました。若者に人気のライトノベル等も積極的に導入しているので、今まで図書館を利用したことがなくても、電子媒体で本を読んでみようと思う中高生が増えてくれたらいいと思います。

POINT

工夫

●子供向けデジタル絵本ワークショップ

本の作り手にも簡単になれるのが電子書籍の魅力。札幌市は、小学生に一人一台タブレットを配布し、オリジナルの電子絵本を作るイベントを行いました。子供たちは夢中になって制作に取り組み、参加者同士の交流も楽しんでいました。

●市内学校との連携

市内学校と図書館の連携は強く、これまでも学校の授業の一環で子供たちは図書館に足を運び、イベントの参加や調べ学習などを行っていました。今後は電子書籍を活用した取組についても、学校と連携しながら行いたいと考えています。

高森町（長野県）

高森ほんともWeb－Library

取組のねらい ・若年層への読書普及

取組の主体 高森町

取組の沿革・概要

2020 年 6 月、高森町では電子図書館を導入しました。サービスを選ぶ際には、業者のデモンストレーションに図書館協議会委員や学校司書、公共図書館職員、教育委員会事務局が参加し、電子書籍を実際に触って体験をしました。

開始にあたっては青少年を利用対象の中心にすえ、最初に揃えた 250 点は、主にヤングアダルト向けのコンテンツを選んでいます。

取組の具体的内容

青少年に電子書籍を読んでもらおうと、ヤングアダルト向けの選書に重点をおくとともに、英語学習にも使えるよう、ネイティブの音読機能があるコンテンツも導入しています。

選書が青少年向けであることから、20 代までの若年層の電子図書館の登録率は、全体の 40 パーセントと高くなっています。また、電子図書館を始めたばかりの数か月は、人気本の上位はつねに青少年向けの書籍で占められていました。

取組の成果と今後の展望

青少年の電子図書館への登録率が高いことから、目的に合わせた選書が若者の読書活動に繋がっていることを感じます。一方、最大の課題は、限られた予算のなかで選書を行うことです。コンテンツの内容が実際の利用率に反映する以上、選書に力を入れていきたいところですが、予算制限のある中で蔵書を増やすことは容易ではありません。

新年度にはGIGAスクール構想による小・中学生の一人一台のタブレット導入に合わせて、学校司書が電子図書館の使い方を授業の中で案内するという計画があります。子ども読書支援センターが機能して、学校と公共図書館の各司書の連携が取れているので、今後そのような試みにも力を入れていきたいと思っています。

POINT

工夫

●図書館内に電子書籍体験コーナーを設置

図書館内にタブレットを用意し、電子書籍がいつでも体験できるようになっています。実際に触って体験することで、電子書籍がより身近に感じられることを目的にしています。

●ヤングアダルト向けコンテンツの選書

電子書籍を若年層に普及させたいという思いから、ヤングアダルト向けのコンテンツを中心に選書。その甲斐もあり、10 ～ 20 代の電子図書館利用率は、当館の従来の図書館利用と比べ高くなっています。中には、高校生同士の口コミで、電子図書館の登録のために来館するというケースもありました。